

## (7月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
だいこん		9,415	98	9,475	79	114	83	—	—	北海道、青森産中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は例年どおり7月中旬からの出荷見込み。現状は5月の低温と乾燥が影響し肥大は良くない。入荷量は前年をやや下回る見込み。青森産は生育順調で2L中心の出荷となる見込み。7月に入るとにんじんやにんにくの作業が入り大根の出荷は減ってくる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を上回る見込み。
にんじん		7,300	90	6,537	106	147	134	—	—	千葉、青森、北海道産中心の入荷で全体の約9割を占める。千葉産は5月の雨の影響で作業が遅れ、肥大も良くない。出荷ピークは6月下旬から7月上旬の見込み。青森産は例年より若干早く7月始めからの入荷予定。生育は概ね順調で、肥大も平年並み。ピークは7月中旬で8月上旬で切りあがる見込み。北海道産も例年よ干ばつの影響で、小ぶりとなっている。M、L中心の出荷となるが、7月の入荷量としては前年並みを確保すり若干早く、6月下旬から始まった。生育は順調で、ピークは7月中旬の見込み。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
はくさい		6,644	100	6,274	60	100	62	—	—	長野産中心の入荷で全体の約6割を占める。長野産は5、6月の降雨により生育が不揃いとなっている。そのため7月上旬は入荷量が少なくなり、回復は中旬以降となる見込み。全体の入荷量、価格とも前年並の見込み。
キャベツ類		15,284	100	15,299	88	85	74	—	—	群馬、岩手産中心の入荷で全体の約8割を占める。群馬産は5月の低温と降雨の影響により、定植は前年よりも早かったが生育は平年より1週間程度の遅れとなっている。出荷については増加傾向で7月は平年並みとなる見込み。岩手産は6月垂下旬から出荷が始まり、ほぼ平年並みの出荷が続いている。生育・肥大も平年並みとなっている。全体の入荷量は前年並み、価格は前年を下回る見込み。

## (7月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
ほうれんそう		1,049	102	1,112	618	105	610	—	—	岩手、岐阜を中心に入荷。岩手産は春先から前年比110%のペースで出荷が続いている。7月には入れば入荷量は減少するものの昨年に比べ入荷量は多いと見込まれる。岐阜産は干ばつの影響で生育が鈍っているが、7月には回復しほぼ一定の量が入荷する見込み。全体の入荷量は前年を若干上回り、価格は前年を上回る見込み。
ねぎ		4,031	100	4,199	315	105	268	4	0.1	国産では、茨城中心の入荷で全体の約6割を占める。7月も6月と同量の出荷が続く見込み。階級は2Lの比率が減り、L、Mの比率が高まる見込み。全体の入荷量は前年並み・価格は前年を上回る見込み。
レタス類		8,241	100	8,703	164	79	124	—	—	長野産中心の入荷で全体の約8割を占める。長野産は5,6月の低温・長雨の影響により当面は小玉傾向が続く見込み。前年は2L中心の出荷となったが、今年はL中心となる見込み。全体の入荷量は前年並み、価格は前年を大きく下回る見込み。
きゅうり		7,085	99	7,727	307	85	243	313	4.4	福島を中心とする東北産が市況をリードする。福島産は半促成栽培が6月下旬で終了し、露地ものへの切り替わり時期となる。露地の生育は順調で品種はパイロットが中心。宮城産は好天に恵まれ順調な出荷が続いている。7月は促成もの入荷は減少するが、露地ものが出始め、中旬には潤沢な入荷となる見込み。全体の入荷量は前年並み、価格は前年を大きく下回る見込み。
なす		3,369	97	4,058	374	105	313	—	—	栃木、埼玉等の関東産が市況をリードする。栃木産7月下旬から入荷量が増加。作付けは前年比95%。出荷ピークは7月下旬から9月下旬。埼玉産は5月の天候不順から平年より10日遅れ、7月に入ってから入荷となる見込み。出荷ピークは8月中旬。全体の入荷量は関東産が遅れており前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。

## (7月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
トマト		7,818	102	8,455	273	95	258	395	5.1	群馬を中心とした関東産の後半ものと青森を中心とした東北産が市況をリードする。群馬産は7月上旬から入荷が始まる。ピークは7月下旬から8月末まで続く見込み。生育は平年に比べ若干遅れている。青森産は生育は平年並み。7月中旬かあピークに入る見込み。品質は良好。全体の入荷量は前年を若干上回り、価格は前年を下回る見込み。
ピーマン		2,160	98	2,319	336	98	282	—	—	茨城、岩手産中心で全体の約9割を占める。茨城産は、7月後半には次の作型の準備に入るため、7月上旬から入荷量は減少する。7月の入荷量としては平年を下回るものと見込まれる。岩手産は生育順調で作付けも増えていることから入荷量もほぼ例年並みの見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格も前年をやや回る見込み。
ばれいしょ		6,021	90	5,655	86	145	116	—	—	静岡、千葉、長崎産中心の入荷となる静岡産は平年並みに出荷が始まったが出荷ペースは前年よりも遅れている。露地の入荷は6月下旬から本格化し、7月中旬がピークとなる見込み。サイズも小ぶりで中心階級はM。前年比90%となる見込み。千葉産も小ぶりで、前年の80%の出荷見込み。出荷は7月中旬で終了。長崎産は平年並みの作柄と見込まれるが、玉数が多く小玉傾向。全体の入荷は前年を下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
たまねぎ		9,890	103	10,582	78	103	88	—	—	佐賀、兵庫産中心の入荷で全体の約7割を占める。佐賀産は中生種の収量が良く、平年を上回る見込み。兵庫産も作柄は良好であるが、価格を見ながらの出荷となるので、7月については平年並みの入荷を見込んでいる。全体の入荷量は前年を上回り、価格も前年を上回る見込み。